

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 62

事業名	社会を明るくする運動補助金		
担当課・室・班名	健康福祉指導課 地域福祉推進班	問合せ先(電話番号)	2615

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方針	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を目指す”社会を明るくする運動”に対して助成する。					
当初予算額(千円)	27年度	40	28年度	40	29年度	40
決算額(千円)	27年度	40	28年度	40	29年度	
財源内訳	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源
	○		○		○	

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

○社会を明るくする運動千葉県推進委員会に対し、運動に要する経費に対し助成した。  
 ・駅頭広報活動 平成28年7月1日(金) そごう千葉店前の小三角地  
 ・作文コンテスト 平成28年7月～9月まで募集 応募総数20,736点  
 →作文コンテスト表彰式 平成28年12月27日(火) 千葉市美術館  
 ・感謝状贈呈式 平成28年11月17日(木) 香取市佐原文化会館

#### (2) 事業の成果

・犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生についての理解の促進が図られた。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を目指すという同運動を支援することは意義があり、今度も継続して補助していきたい。

### 4 委員意見

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 63

事業名	青少年非行防止対策事業		
担当課・室・班名	県民生活・文化課子ども・若者育成支援室	問合せ先(電話番号)	2288

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害者防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方針	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	関係機関、団体、地域住民が非行に対する共通の理解と認識を深め、非行防止の諸施策及び活動を連携して実施するため、非行防止に関する啓発等を実施する。					
当初予算額(千円)	27年度	892	28年度	892	29年度	892
決算額(千円)	27年度	848	28年度	892	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

・青少年のインターネットの適正な利用を図り、ネットトラブルを防ぐことや、万引、飲酒・喫煙、薬物乱用等の非行や被害を防止するため、「非行・被害防止リーフレット」を新中学生の保護者向け及び新高校生向けに作成し、広報・啓発を行った。

#### (2) 事業の成果

・「非行・被害防止リーフレット」を新中学生の保護者向けに65,000部作成し、万引、飲酒・喫煙、薬物乱用等の非行や被害を防止するための啓発を行うとともに、新高校生向けのリーフレットを65,000部作成し、非行防止と併せ、携帯電話・インターネットの危険性や、青少年健全育成条例の内容などについて啓発を行った。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・中学生や高校生に携帯電話やスマートフォンが普及している一方、フィルタリングの普及率は依然低調であることから、インターネット上の有害情報から青少年を守る取組を今後も継続していく必要がある。

### 4 委員意見

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 64

事業名	学校警察連絡制度		
担当課・室・班名	警察本部 少年課	問合せ先(電話番号)	201-0110

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方針	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	児童生徒の健全育成に関する学校と警察の相互連絡制度として千葉県教育委員会等と締結し運用する。(平成16年以降)					
当初予算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	-
決算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

- 学校警察連絡制度実施状況
- ・警察から学校への連絡 101人(前年度比+201人)
  - ・学校から警察への連絡 17件(前年度比-12人)

#### (2) 事業の成果

- ・学校警察連絡制度を通じ、学校と警察における情報交換・情報共有が図られた。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・学校警察連絡制度が形骸化することなく、より一層の情報交換、情報共有が図られるべく活性化を図っていく。

### 4 委員意見

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 65

事業名	スクール・サポーター制度		
担当課・室・班名	警察本部 少年課	問合せ先(電話番号)	201-0110

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の少年を対象とした非行防止や立ち直り支援、学校における児童生徒の安全の確保を目的とし、主として、非行問題等を抱える学校からの要請に基づいてスクール・サポーター(嘱託職員)を派遣し、学校職員に対する生徒指導や健全育成に係る指導・助言、対象生徒等に対する指導・助言、学校等が実施する学校内外のパトロール活動への支援などを行う。(平成16年以降)					
当初予算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	-
決算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

○スクール・サポーター活動状況  
 ・学校派遣校数 15校 (前年度比▲4校)  
 ・学校訪問活動数 延べ415回(中学校)(同+6回)、中学校訪問実施率102%

#### (2) 事業の成果

・学校職員の意識改革、警察、学校との連携した生徒指導体制が強化され、校内秩序の改善が図られるなど、いじめを始め児童生徒の暴力行為等の問題行動への抑止力や立ち直り支援への効果が認められた。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・児童生徒の問題の複雑化等により派遣期間が長期化となり、学校からの派遣要望に十分に応えておらず、平成30年度当初予算要求において増員要望を行う。

### 4 委員意見

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 66

事業名	少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動		
担当課・室・班名	警察本部 少年課	問合せ先(電話番号)	201-0110

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方針	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	少年の再非行防止策として、過去に警察の取り扱った非行少年のうち、保護者の同意を得た少年に対し、個々の少年の状況に応じた指導・助言を始め、社会奉仕・体験活動を行うなど、少年に手を差し伸べる「出前型」の立ち直り支援を行う。(平成23年以降)					
当初予算額(千円)	27年度	297	28年度	261	29年度	232
決算額(千円)	27年度	127	28年度	225	29年度	
財源内訳	県単(○)	非行少年を生まない社会づくりの推進	県単(○)	非行少年を生まない社会づくりの推進	県単(○)	非行少年を生まない社会づくりの推進

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

・問題を抱える個々の少年の状況に応じた指導・助言を始め、少年警察ボランティア等と連携した農業体験活動等を通じた立ち直り支援活動を実施した。

#### (2) 事業の成果

・刑法犯少年に占める再犯者の割合は3割以上と増加している中、平成23年3月から取り組んでいる「非行少年を生まない社会づくり」の中で、問題を抱える個々の少年の状況に応じた指導・助言を始め、少年警察ボランティア等と連携した社会奉仕・農業体験活動等を通じて立ち直り支援を行ったところ、支援対象少年のうち、再び非行に走る少年の割合は約8%と抑止効果が認められる。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・個々の少年の状況に応じた指導・助言を始め、少年警察ボランティア等と連携した社会奉仕、農業体験活動等を行う。

### 4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 67

事業名	少年サポート活動		
担当課・室・班名	警察本部 少年課	問合せ先(電話番号)	201-0110

1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	少年の非行防止と保護のため、県下6か所の少年センターにおいて、警察職員が、非行防止・薬物乱用防止のための広報啓発、不良行為少年等の発見、補導活動を行う。					
当初予算額(千円)	27年度	469	28年度	473	29年度	414
決算額(千円)	27年度	437	28年度	434	29年度	
財源内訳	県単(○)	少年サポート活動 薬物乱用防止等広 報啓発活動	県単(○)	少年サポート活動 薬物乱用防止等広 報啓発活動	県単(○)	少年サポート活動 薬物乱用防止等広報 啓発活動
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<p>○非行防止・薬物乱用防止教室開催状況(平成28年中)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非行防止教室 延べ318校、394回 (前年比▲42校、▲42回)</li> <li>・薬物乱用防止教室 延べ517校、541回(同+12校、+16回)</li> </ul> <p>○不良行為少年補導人員(平成28年中) 27,785人(同▲5,714人)</p> <p>○刑法犯少年検挙人員(平成28年中)1,419人(同▲430人)</p>
--

(2)事業の成果

<p>・学校における非行防止教室等、少年の健全育成を図るための広報啓発活動を通じて、少年の規範意識の醸成等を行っており、刑法犯少年の検挙人員は、平成16年をピークに減少傾向にある。</p>
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>・刑法犯少年検挙人員は、平成16年をピークに減少傾向にあるものの、刑法犯少年に占める再犯者の割合は、3割を超え増加傾向を示しているほか、電話de詐欺への少年の加担や危険ドラッグの問題など、少年を取り巻く諸情勢は依然として厳しい状況である。</p> <p>・学校における非行防止教室等の広報啓発活動のほか、街頭補導活動等の少年の健全育成を図るための諸活動を継続的に実施する必要がある。</p>
--

4 委員意見

<p> </p>
----------

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 68

事業名	少年補導員活動		
担当課・室・班名	警察本部 少年課	問合せ先(電話番号)	201-0110

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	・少年警察ボランティアを委嘱し、街頭補導活動、有害環境浄化活動を行う。 ・「非行少年を生まない社会づくり」の一環として、農業体験活動による少年の居場所づくりを図る中で、少年に対して社会との協調性、コミュニケーション能力の醸成を図る。					
当初予算額(千円)	27年度	4,764	28年度	4764	29年度	4764
決算額(千円)	27年度	4,595	28年度	4591	29年度	
財源内訳	県単(○)	少年補導員活動	県単(○)	少年補導員活動	県単(○)	少年補導員活動

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

○少年警察ボランティア活動状況 ・街頭補導、有害環境浄化活動等 延べ1,777回(前年度比▲22回) ・農業体験活動等、少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動に従事
--

#### (2) 事業の成果

・街頭補導を通じての少年への指導・助言や少年にとって有害な広告物の撤去など、地域における少年の健全育成に資する献身的な取組を行っているほか、農業体験活動等の各種活動を通じた少年の立ち直り支援活動を実施しており、刑法犯少年の検挙人員は、平成16年をピークに減少傾向にあるほか、3割以上と増加傾向にある刑法犯少年の再犯者率に対し、農業体験活動等を通じた立ち直り支援を実施した少年の再犯者率が約8%にとどまるなど、一定の効果が認められる。
--

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・刑法犯少年検挙人員は、平成16年をピークに減少傾向にあるものの、刑法犯少年に占める再犯者の割合は、3割を超え増加傾向を示しているほか、電話de詐欺への少年の加担や危険ドラッグの問題など、少年を取り巻く諸情勢は依然として厳しい状況である。 こうした中、街頭における少年への指導・助言や立ち直り支援活動等の少年の健全育成に資する献身的な取組に対し、継続的な支援を実施していく。
--

### 4 委員意見

(This area is currently blank for committee comments.)
--

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 69

事業名	タッチヤング活動		
担当課・室・班名	警察本部 少年課	問合せ先(電話番号)	201-0110

1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	少年非行防止対策として、柔道・剣道を通じて警察職員と少年がふれあい、信頼関係や規範意識、自制心を育てている。					
当初予算額(千円)	27年度	316	28年度	345	29年度	334
決算額(千円)	27年度	253	28年度	259	29年度	
財源内訳	県単(○)	タッチヤング活動	県単(○)	タッチヤング活動	県単(○)	タッチヤング活動
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・第32回タッチヤング千葉県少年柔道・剣道大会(7/22)を実施した。  
(柔道11チーム、剣道15チーム参加)

(2) 事業の成果

・タッチヤング活動は、長期的展望に立った少年非行防止対策として、警察職員と少年とのふれあいの場を通じてお互いの信頼関係を高め、少年の規範意識や自制心などを育み、少年非行の防止を図ろうとする活動であり、警察署の道場を開放して柔道、剣道の指導をするなど、少年の健全育成への効果が期待される。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・長期的展望に立った少年非行防止対策として、昭和60年以降31年にわたり継続している事業であり、柔道・剣道を行う少年の日頃の鍛錬の成果を発揮する機会として、年度1回タッチヤング千葉県柔道・剣道大会を実施しており、平成29年度は第33回大会を実施する(7月)。

4 委員意見



## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 70

事業名	自転車盗難対策推進モデル校事業		
担当課・室・班名	千葉県警察本部生活安全総務課犯罪抑止推進室	問合せ先(電話番号)	201-0110

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども、若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・犯罪防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	各警察署管内の学校をモデル校として指定し、学校・教育機関と連携した自転車盗抑止対策を推進し、学生・生徒の規範意識の向上を図る。					
当初予算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	-
決算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

- ・中学校11校、高校17校、大学5校の計39校をモデル校に指定
- ・各学校の取組・活動状況を県警ホームページにおいて紹介
- ・モデル校と連携し、各種キャンペーン等を実施
- ・各学校等に対し、自転車盗難対策等の防犯講話・指導を行った。
- ・ワイヤー錠やチラシを配布し、二重ロックの徹底等呼びかけた。

#### (2) 事業の成果

- ・学生・生徒と共にキャンペーン等を行ったことにより、防犯意識の向上が見られた。
- ・ワイヤー錠やチラシの配布、防犯講話・防犯指導を行ったことにより、二重ロックを徹底するなど、防犯意識の高揚が図られた。
- ・学生・生徒がチラシ・ポスターを作成することにより、防犯意識の向上が図られた。
- ・昨年に比べ自転車等の被害認知件数が-3.7%減少した。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・自転車盗は非行の入り口となりやすい「ゲートウェイ犯罪」の一つであることから、今後も学校・教育機関及び学生・生徒等と連携した自転車盗抑止対策を推進し、防犯意識や規範意識の向上を図っていく。

### 4 委員意見

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 71

事業名	薬物乱用防止対策事業		
担当課・室・班名	薬務課麻薬指導班	問合せ先(電話番号)	2620

### 1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	ボランティアとして委嘱している千葉県薬物乱用防止指導員や健康福祉センター職員を中心に薬物乱用防止教室を開催し、薬物乱用防止を啓発する。また、リーフレットを作成し、市町村を經由して、自治会で各家庭に回覧することにより、薬物乱用防止を啓発する。さらに、危険ドラッグに関わる事件・事故の検挙者及び救急搬送者は20代～30代が大半を占めることから、青少年を中心とした啓発を行う。					
当初予算額(千円)	27年度	22,647	28年度	18,042	29年度	5,096
決算額(千円)	27年度	26,034	28年度	16,181	29年度	
財源内訳	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源
	○		○		○	

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

・薬物乱用防止街頭啓発活動を116回実施した。  
 ・薬物乱用防止教室を80回開催した。  
 ・指導員の研修会を21回開催した。  
 ・青少年向けリーフレットを13万部印刷し、県内の市町村を通じて全戸回覧を実施した。  
 ・危険ドラッグに対する広報啓発として、ラジオ・動画CMをラジオ(bayfm)、県ホームページ、インターネット検索サイトトップページ(Yahoo)、YouTube、コンビニ店内、京葉線車内、タクシー車内、自動車教習所で放送・放映した。

#### (2) 事業の成果

・県民に対し薬物乱用の危険性を伝え、薬物乱用防止に対する正しい知識の醸成を図った。  
 ・県内中学、高校、専門学校に対してアンケート調査を実施したところ、薬物乱用防止教室の開催(86%)インターネット広告(44.5%)、電車・バス内の広告(43.8%)が啓発の効果が高いとの評価を得た。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・危険ドラッグ啓発については、検挙者及び死者数が減少したこと、実店舗が全国で0となったことから、一定の成果を得られたと考えられる。  
 ・今後は覚醒剤、大麻など、依然として検挙者数が多く乱用の危険性が高い薬物を主な対象として、引き続き正しい知識の醸成を図る。

### 4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 72

事業名	薬物相談窓口事業		
担当課・室・班名	薬務課麻薬指導班	問合せ先(電話番号)	2620

1 事業の概要

柱	Ⅱ 困難を抱える子ども・若者の支援・被害防止・保護					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	健康福祉センターに設置している薬物相談窓口において薬物に関する相談等に応ずることにより、薬物乱用防止を啓発する。					
当初予算額(千円)	27年度	91	28年度	91	29年度	91
決算額(千円)	27年度	52	28年度	63	29年度	
財源内訳	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源	県単(○)	一般財源
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

・平成28年度に薬務課・健康福祉センター(保健所)・精神保健福祉センターで受理した薬物に関する相談件数は652件あった。

(2)事業の成果

・薬物に関する問題を抱える県民やその家族に薬物乱用の危険性を伝え、その解決に向けての相談に応じることには、薬物乱用の未然防止及び再乱用の防止に資する。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・引き続き、県民からの相談に応じる。

4 委員意見

## 第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 73

事業名	薬物乱用防止教室推進事業		
担当課・室・班名	学校安全保健課 保健班	問合せ先(電話番号)	4092

### 1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	4 非行・被害防止・保護					
基本方策	7 非行・犯罪防止・立ち直り支援					
事業内容	学校の教員等を対象に薬物乱用防止教育について理解を深めるための研修会を行うこと によって教員等の指導力向上を図り、もって、薬物乱用防止教育の一層の充実に資する。					
当初予算額(千円)	27年度	509	28年度	549	29年度	549
決算額(千円)	27年度	461	28年度	475	29年度	
財源内訳	県単(○)	国庫	県単(○)	国庫	県単(○)	国庫

### 2 事業実績・評価等

#### (1) 事業の実施結果

・平成28年7月28日に習志野文化ホールにおいて、「平成28年度薬物乱用防止教育研修会」を開催した。参加者は県内公立学校職員、市町村教育委員会担当者、教育事務所担当者等、計1,360名。  
・研修会では、中学校及び高等学校から薬物乱用防止教育の実践事例を発表したほか、薬務課及び学校安全保健課からの行政説明、薬物治療プログラムの専門家による講演を行った。

#### (2) 事業の成果

・中学校・高等学校の実践事例発表により、各地域や学校の実情に応じた指導の方向性を共有することができた。  
・講演及び行政説明により、薬物に関する最新情報を習得できた。  
・薬物乱用防止教室の効果的な実施方法について学ぶことができた。

### 3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・国内では、若者を中心に大麻が乱用されている状況にあること、また、危険ドラッグ等、乱用される薬物が多様化し、若者への拡がり懸念されている状況にある。薬物乱用問題は、青少年の生涯を通じた健康を考える上でも極めて重要な健康課題であり、学校の教員等の指導力向上を図るため、今後も本事業を継続していきたい。

### 4 委員意見